

課題解決型インターンシップ最終報告

田口輝 中野竜 長谷川琴音 松本茉亜子 渡邊雪

私たちの解決課題

旧小学校の「廃校利活用のアイデア求む！」

廃校二階の教室二部屋と小さな和室の活用方法を私たちが考える。

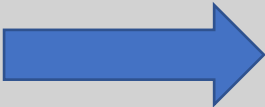
目次

- ・小堅地区の概要
- ・小堅地区の現状
- ・フィールドワークをしてみても・・・
- ・私たちの提案
- ・まとめ

鶴岡市小堅地区の概要

山形県鶴岡市小堅地区

鶴岡市 小波渡
鶴岡市 堅苔沢



小堅地区 243世帯
(男:331人 女:367人 計:698人)

小波渡自治会⇒129世帯(男:170人 女:190人 計360人)

堅苔沢自治会⇒114世帯(男:161人 女:177人 計338人)

小堅地区といえはば・・・

・波渡ナス

・庄内おぼこサワラ

・岩ゆり太鼓

・シェアハウスキッチンこがたん

小堅地区の現状(1)

- ・1957年に1554人を超えた人口が、現在は243世帯698人(10月末時点)と半分以下に減少。
内、0歳～14歳までの子供はわずか38人。
高齢化がますます進み45%を超えた。

小墾地区の現状(2)

- ・コンビニや居酒屋、ラーメン屋といった店が近くにない。
- ・名産品が少ない。これといったものがない。
- ・子どもたちのつどいの場がない。学校から帰ってきて遊びに行くところがない。
- ・交通の便が少ない。

フィールドワークをしてみて・・・

- ・予想していたより、福祉イベントをはじめとした地域活動を行っていた。
- ・情報発信力が弱いと感じた。
- ・地元住民同士、仲が良さそうな雰囲気があった。
- ・子どもが学ぶ、学習施設があったらいいなという住民の方の声を聞いた。
- ・おしゃれなカフェがあった。

私たちの提案

廃校の二階を小堅地区の子どもたちが
学校から帰って遊びに来れる児童館にしよう！！！！

提案理由

- ・遠くに行かないと子供たちの交流の場がないから。
(学習塾やスイミングスクール等)
- ・昔のような活気を取り戻したいと思った。
- ・現地訪問の際に訪れたカフェの店員さんに「小学校から帰ってきた子供たちが集まって遊べる場所が欲しいよね～」という声を聞いたから。

メリット

- ・子どもたち(小学生以上)が学校から帰ってきてから遊びに行けることができる。
- ・地域住民と子供たちの交流の場ができる。
- ・わざわざ外に行かなくても遊べる場ができる。
- ・そこを拠点とした活動ができる。

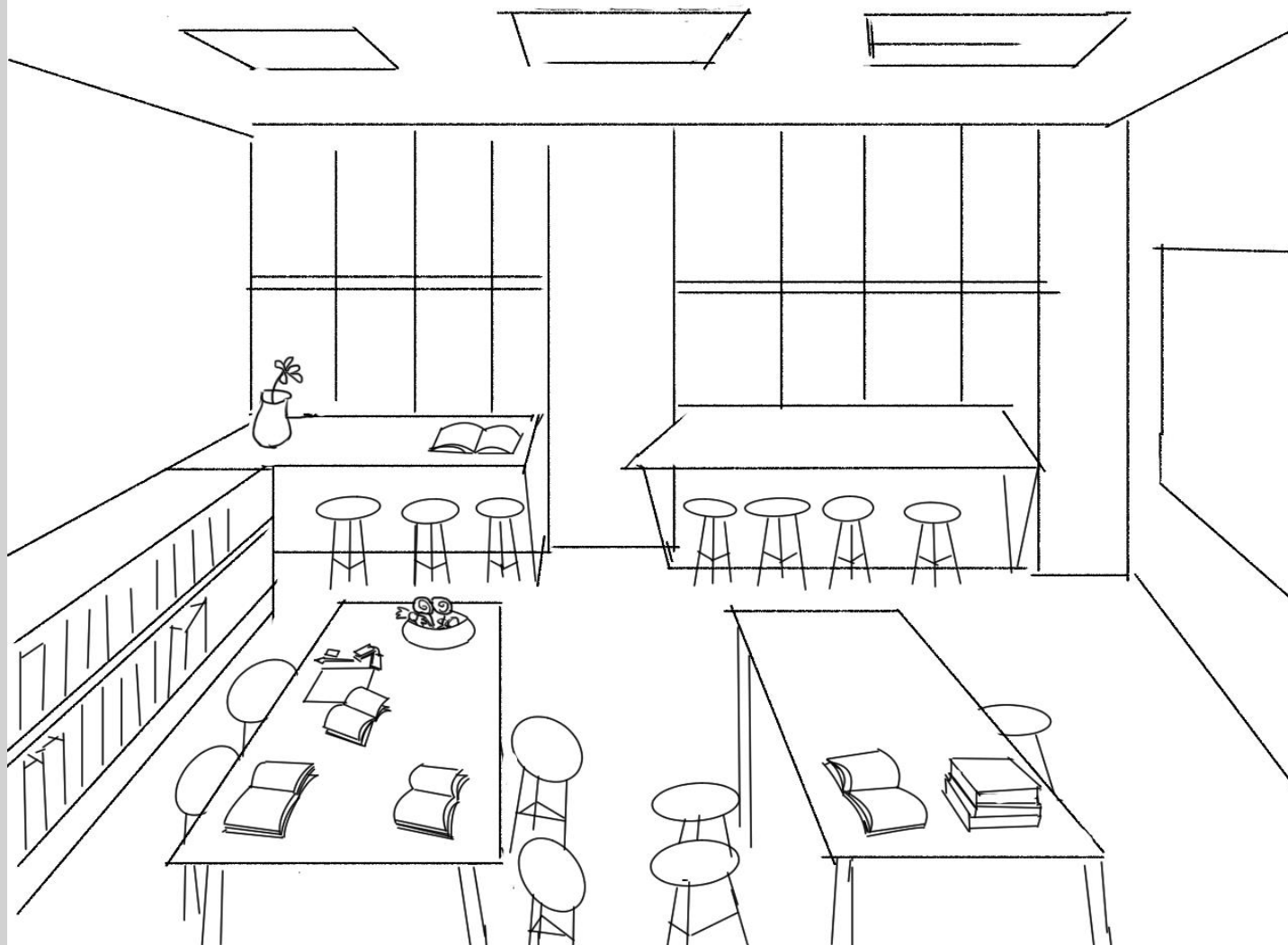
企画概要

1つの教室は、読書ルームに
もう1つの部屋は、アナログゲーム部屋に。
和室は漫画部屋にしたい。

読書・勉強ルーム

- ・本の寄贈を様々な媒体で呼びかけて、集まった本で読書ルームを作る。
⇒ただ不要になった本を集めるのではなく、「子どもたちに読んでもらいたいあなたの人生における一冊はなんですか？」というふうに本を募集をする。
- ・子どもたちが楽しんで本と触れ合えるような本棚にする。
- ・パズルやぬり絵を置く
⇒学校の図書館との差別化を図る。
- ・読書だけでなく宿題などでもできる環境にする。
※媒体⇒市の広報に周知依頼、市の小中学校(PTA)向けに呼びかけチラシを配布、SNSによる周知。

イメージ図



アナログゲーム部屋

- ・ゲームが遊びの中心になってしまったの子たちにアナログゲームや昔の遊びの楽しさを思い出してほしい。
- ・子ども同士だけでなく、世代間関係なく誰もが楽しめる場にしたい。
⇒大人たちが小さい頃にやっていた遊びの楽しさを子どもたちと共有できる(先生と生徒のような関係になり交流を促進できる)





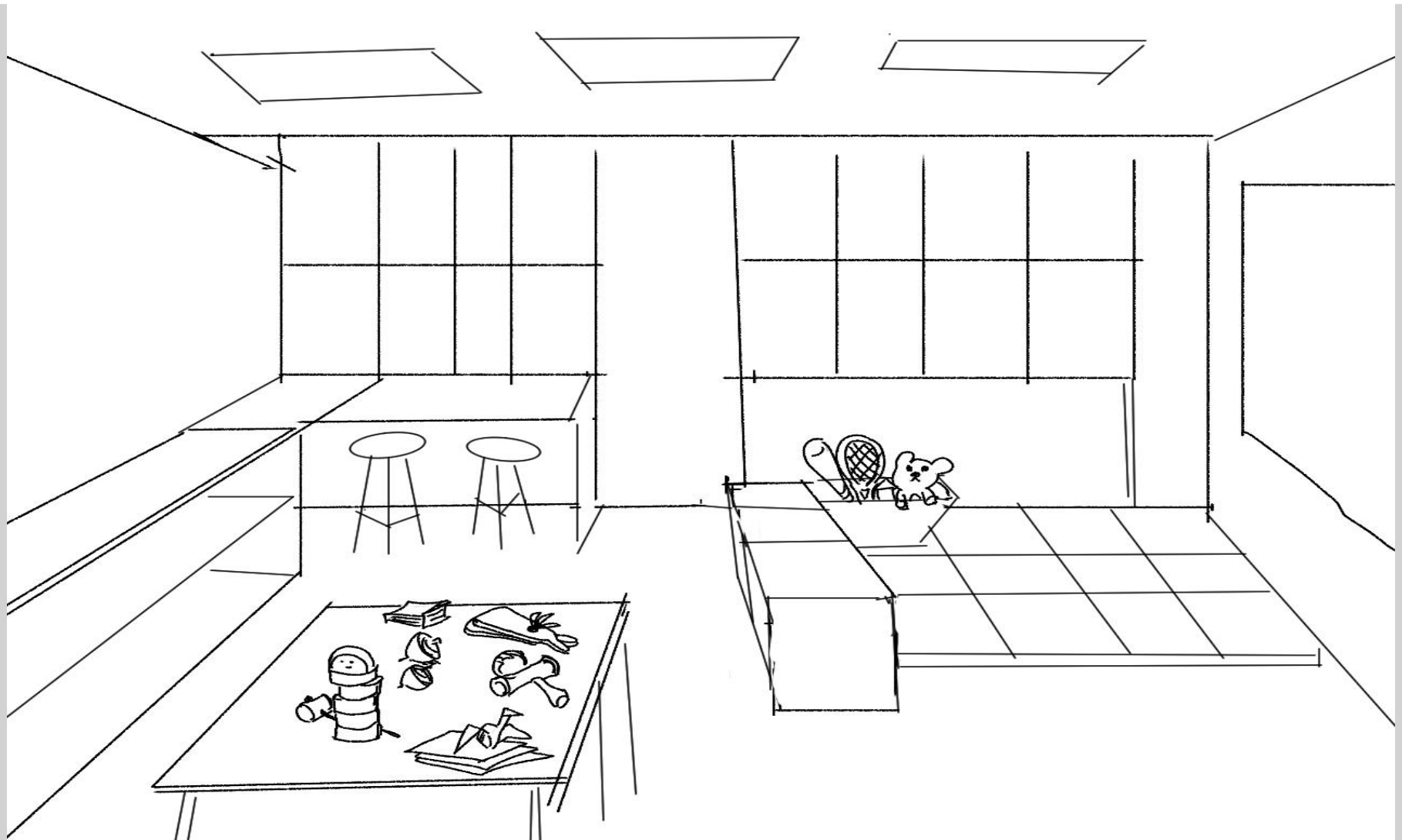




アナログゲーム部屋

- ・多種多様なアナログゲームを置くことで、デジタルゲームでは味わえない楽しさを味わってほしい。
- ・我々大学生も、スマホゲームやテレビゲームなどで主に遊んでいるが、仲間同士で集まってアナログゲームをすることで普段味わえない楽しさを感じることができる。⇒集う楽しさ、みんなで笑い合う楽しさ。

イメージ図



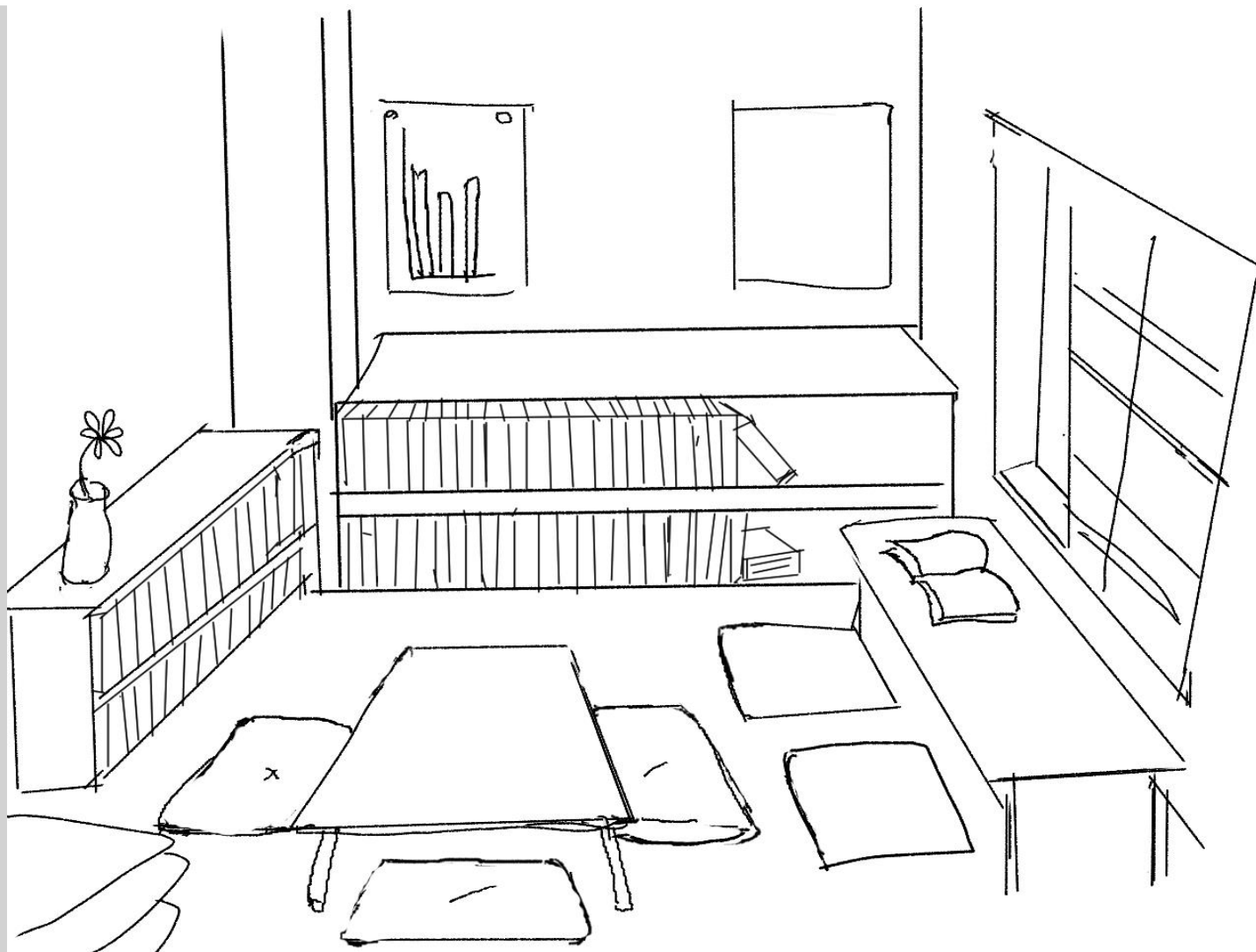
和室漫画部屋

- ・漫画専用の部屋を作ること子どもたちをもっと寄り付きやすくしたい。(鬼滅の刃などの人気漫画なども置きたい…)

- ・和室という落ち着ける空間を一部屋作ること様々な利点
が生まれる(たとえば…)

⇒漫画を読む部屋としてだけでなく、茶道や書道などの和室
ならではのこともできれば良いと考えている。

イメージ図



定期的にイベントを開催

- ・目指せ！小堅チャンピオン

⇒月2回、毎月違った内容で小堅No.1を競い合うイベント。

1～3位には別途ポイントが与えられる(参加すると必ず1ポイントもらえる)。ポイントは累積されるシステム。

4月スタートで換算し、毎年3月に年間チャンピオンを決定する。

- ・子どもたちの競争心を刺激するためにも現在誰が何ポイント保有しているのかを掲示する。

具体例

- ・空き缶どれだけ積み上げられるか選手権
- ・1分間でどれだけ小豆を多く皿に移せるか選手権
- ・ペットボトルボーリング
- ・紙飛行機どこまでとばせる！？選手権

⇒怪我をしにくいイベントで構成する

ところでこの取り組み誰がやるの？

提案1

地区の市民ボランティアを募る

⇒地区のシニア世代を中心に、昼食付で募集。

提案2

常駐しているコミセンスタッフが子どもたちの見回り
⇒一時間に一回、換気兼子どもたちの様子見を行う

提案3

大学生ボランティアを募る

⇒公益大には様々な種類のサークルや団体がある。
そこに協力を依頼する。

まとめ

- ・児童館を設けて、子供同士はもちろん、世代間での交流を促進することでさらなる小堅地区の発展につなげていきたい。
- ・イベントを通して、日常では触れ合えない様々な文化を体験してほしい。
- ・児童館を拠点として、大学生と合同の企画などもしていきたい。

画像引用先

[商品情報 | 人生ゲーム | タカラトミー \(takaratomy.co.jp\)](http://takaratomy.co.jp)

[おばけ屋敷ゲーム \(asahi-net.or.jp\)](http://asahi-net.or.jp)

[はあって言うゲーム新装版 \(プロモーションカード付き\) \(おひとり様1点まで\) / ボードゲーム通販「JELLY」 \(jellyjellycafe.com\)](http://jellyjellycafe.com)

[【ゲーム紹介】ナンジャモンジャ | 不思議な生き物に名前をつけるパーティーカードゲーム! | ニコボド | ボードゲームレビュー&情報系ブログ \(nicobodo.com\)](http://nicobodo.com)

ありがとうございました